

学ぶところが輝く学校

茅ヶ崎市立汐見台小学校

学校だより 7月号

令和7年 7月 2日

校長 楠山 小百合

子どもと子どもの関わりあいを大切にして

梅雨明けまであとわずかなようです。日に日に暑さが増しています。

6月21日の土曜参観にはたくさんの保護者の皆様に参加していただき、ありがとうございました。朝、「今日ね、2時間目に来るんだよ。」「算数の時に来てくれるって言ってた。」と、ひまわりの花のような嬉しそうな笑顔で話してくれる低学年の子どもたちがいました。頑張っているところをおうちの方に見てもらおうと、張り切っている気持ちを感じられました。



私は、児童全員が笑顔で学校生活を送ってほしいと思っています。しかし、300人弱の子どもたちが一緒に過ごす学校という空間では、子ども同士の中で様々なことが起こります。必ずしも楽しいことばかりではありません。新年度の緊張もほぐれ、友達との関係が深まっていくこの時期は、子ども同士のトラブルも起こりがちです。子ども同士での誤解や価値観の違いから摩擦や衝突が生ずることもあります。誰しも人と人との関係で嫌な気持ちになったりつらい経験をしたりすることがあります。大人だけでなく子どももちろん同じです。小さなぶつかり合いをとおして、言葉や行動の受け取り方が人によって自分とは違うことを知り、人の気持ちを考えることができるようになっていきます。ちなみに、相手の立場や気持ちを考えられるようになるのは、発達心理学では10歳以降と言われています。しかし、10歳になったからといって、自然と相手の気持ちを考えられるようになるわけではありません。それまでに、相手のことを考える場面を経験することで、相手のことを考える力の素地が育まれていくのです。そうして、子どもたちは成長していきます。

子ども同士のトラブルを自分たちで解決できれば、素晴らしいことです。けれども、トラブルを解決した経験が少ない子どもたちには、なかなか難しいことも多いようです。時には、大人が力を貸すことでトラブルを乗り越えて、子ども自身の成長につなげていくことも必要だと思います。そのためには、私たち教職員と保護者の皆様とで協力し、子どもたちの日ごろの様子を共有し、連携していくことがとても大切です。お子様のことで気になることがありましたら、個人面談もありますので、どうぞ担任にご相談ください。子どもたちのさらなる成長のために、保護者の皆様とともに考えていきたいと思っています。



汐小屋上田んぼ報告



6月10日（火）小雨の中、5年生で田植えをしました。

今年も平塚生まれの「はるみ」を植えました。「はるみ」という名前は、「湘南の晴れた海」に由来しているそうです。まさに海を臨む汐小の田んぼで育てるのにぴったりのお米です。

まず、稲苗の植え方を農家の島崎さんや大越前校長先生に教えていただきました。各クラスごとに稲苗の根を切らないように分けながら、ロープに沿って丁寧に植えていました。

今回の田植えでは、17名の保護者や地域の皆様にお手伝いいただき、無事に田植えを終えることができました。ご協力ありがとうございました。今後も「授業のお手伝いサポーター」にご参加いただき、子どもたちの成長を地域・学校・保護者の皆様と一緒に見守っていきませんか？どうぞご協力お願いいたします。